令和6年度第4回島根県子ども・子育て支援推進会議 議事要旨

開催日時等：令和7年3月18日（火）13：30～16：00
（サンラポーむらくも2F 瑞雲の間）

1. 議事の主な内容

- (1) 次期「しまねっ子すくすくプラン（県こども計画）」（第1章～4章、第6章）に対するご意見と対応状況について
- (2) 同プラン第5章について
- (3) 同プラン資料編について
- (4) 令和7年度以降の島根県子ども・子育て支援推進会議について

2. あいさつ

《開会あいさつ（昌子次長）》

- ・委員の皆様にはこれまで複数回にわたり次期計画についてご審議いただいたことに御礼申しあげる。
- ・昨年末から行ったパブリックコメントに対し、こども・若者の率直な声が寄せられたことは大変良かったと思っている。
- ・本日は委員の皆様、パブリックコメントを踏まえて修正した計画（案）をお示しする。ご意見の全てを反映させることはできないが、今後5年間の県のこども施策の取組に活かしていきたい。
- ・また、2月議会で来年度以降の推進体制について条例を改正したので、説明させていただく。

《肥後会長ごあいさつ》

- ・パブコメ（案）からさまざまな部分に修正（朱字）が入っており、いろんな部局の多様な施策を含んだ、多岐にわたった計画となっている。
- ・県が独自に取り組む少子化対策がどの程度盛り込まれているか。
- ・創生計画と関連付けながら進めていく計画。良い計画になっているかご意見いただけたらと思う。

3. 議事

《議事（1）関係》 第1章～4章、第6章について 資料2

- ・事務局説明（俵補佐）

○肥後会長

- ・資料1で説明されたところ以外にも朱字が入っている。その部分の説明をお願いしたい。
→（事務局）今年度は、しまね教育振興ビジョンやしまねの架け橋期の教育ガイドなどいろいろな計画の改定が一緒に動いており、それぞれの審議会の委員からのご意見を受け変更された部分を反映したところも朱書きとなっている。例えばP46～47 インクルーシブ教育システムの推進など。（俵補佐）

○肥後会長

- ・P60 不登校支援の施策の方向性6個目「宍道高校を拠点として～各学校で通信教育を行う」とあるが、各学校で行うのは大変なのでは？ 各学校と記載して大丈夫か？

→ (事務局) 教育委員会のR7新規事業で、全日制の学校で不登校の子どもたちなどに通信教育や遠隔授業で単位を認めるよう取り組む学校に対して、宍道高校から教材提供などの支援を行うと聞いている。(俵補佐)

○池田委員

・P76二つ目の○「放課後児童支援員認定資格研修の拡充を継続し」というのはどういう意味か？

→ (事務局) 回数を12回に増やしたり、基本は会場受講だがオンラインで受けられるようにしたりした。こういったところを継続したいという主旨。(田中調整監)

○池田委員

・他の拡充は未定？

→ (事務局) 資格研修・キャリアアップ研修・補助員への研修について、拡充を継続したい(田中調整監)

○池田委員

・これから拡充するという意味なら「拡充を継続し」という言葉は変では？

→ (肥後会長) すでに拡充をしているのでそれを継続するという意味だと思う。

※計画(案)を修正しました。

《議事(1) 関係》 パブリックコメントへの対応について 資料3

・事務局説明(俵補佐)

○肥後会長

・6ページから文字がたくさん並んでいるが、子どもや若者はあまり読まないかもしれない。意見に答えているのか答えていないのかがわからない。「やるものはやる」とわかるように書いた方がよいと思う。線を引く、ゴシックにするなど。県民に全部読めというように見える。県民に分かりやすいように返してほしい。

○坂本委員

・若者世代が返してくれたのがうれしい。県が公表してくれるのがうれしい。

資料3はどのように返すのか？ 文字がぎっちり詰まっていて読みにくいと感じる。

→ (事務局) 時間がない中でどこまで工夫できるかわからないが、もう少しわかりやすく、子どもや若者が、自分たちの意見を聴いてくれたのか、どう考えているのかが分かりやすいようにしていきたい。(俵補佐)

→ (事務局) ご意見と県の考えは島根県のホームページで公表する予定だが、資料3のP2~5のような絵やイラストが貼れないので、どうしたらわかりやすく、見ていただきやすいかを考えている。できる限りの工夫をしていけたらと考えている。(俵補佐)

○坂本委員

・資料3の5ページの最後「なぜ死んではいけないのか」という意見をいいかたちでつないでほしい。

→ (肥後会長) 県民とコミュニケーションをどのようにとるかということが大事。気持ちを大切にしていっていただけたら。

基本的には絵などでひっぱらないと学生も読まない。

《議事（２）関係》 第５章について 資料４

- ・事務局説明（梶谷補佐、田中調整監）

○小山委員

- ・P118の3（2）需要調整に係る特例措置の1行目の文章が読みづらい。「すべての施設（既存の幼稚園、保育所）」と書くなど、認定こども園と並列と見えないようにすると良いと思う。
- ・需要調整を県がどのようにどうするのかわからない。
→（事務局）表現については事務局で精査する。（梶谷補佐）
※計画（案）を修正しました。

○小山委員

- ・こどもが減っていくので、保育所の存続が大変。園が余っているときに、既存の保育所等がこども園に移行したい場合県はどうするのか。市町村にまかせるのか。県のスタンスを教えてほしい。
→（事務局）基本的には市町村で考える。その上で、認定を行うのは県なので、市町村の考えを聴取する機会もある。市町村と一緒に意思疎通を図りながらやっていく。（宇治郷課長）

○肥後会長

- ・移行しやすいような環境を整えるということかなと思った。
- ・「等」が多いと思った。何のことを言っているかわかりにくい。
「すべての施設（既存の幼稚園、保育所）」と書いてあるとわかりやすい。
- ・県として大枠をどうするかということについては大きな施策となるので考えていただけたらと思う。

○堀江委員

- ・P118（2）計画に定める数というのは何か？
→（事務局）ベースになるのは各市町村から出てくる見込みの数（松江市を例に説明）。各市町村の一番多い年度の数字に余裕を見て記載している。（梶谷補佐）
- ・P109の出雲市について、出雲市の幼稚園は4割しか入っていないため、P118の「計画に定める数」にはあまり意味がない。他のところも限りなく近いのではないか。実際にそういうこどもはほとんどいない中で数字が出ていくのはどうかと思う。
→（事務局）多くの地域が供給過剰となっているが、幼稚園や保育所等から認定こども園になって、1号認定や2・3号認定のこどもにも通ってもらえるようにしたいという施設があった場合に、こども園として認定できないということにならないようにしている。新たに認定こども園として認める途を残してあげることの措置。（宇治郷課長）
- ・この人数は市が決めると思う。「これだけ余っているので認定こども園になっていいですよ」という数ということで良いか。
→（事務局）県としてはそうだが、個別の事例になったら、もっと細かい地域で見たときに認可しない方がよいということになるかもしれない。県は市町村に意見を聞いているが、その前提として、供給過剰地域すべてをダメにすると、移行したい施設が移行できなくなってしまうための措置。（宇治郷課長）

- (池田委員) 条例で定める定員で計算すると供給過多に見える。条例をかまっていない関係で多めに見える状況となっている。公立は定員が運営費に影響がないため、昔の数字のままとなっている。
- (池田委員) 松江市は供給過多になった場合、経営への影響が懸念される。園児が安定的に成長できる環境が保障できなくなる。新規で立ち上げることを規制する取組として、4点取り組んでいる。①整備補助金は新規の立ち上げは出さない。②中学校区ごとに需給調整をしている。(湖南、宍道以外では供給過多になりかけている) ③施設の定員の変更を柔軟に認めている。④公立の定員を少なくしている。
- (肥後会長) 全市一区であらわしているのもこれで議論するのは大変かもしれない。これでいいのかなと思う市町村もいくつかある。

○小山委員

- ・P118 需給調整について、市町村と相談をしながら決めるということは話を聞いて分かった。何を意図して書いてあるかがわかりにくいので、「市町村と連携しながら」などが入っていると良い。
- (肥後会長) 制度の話なのか、施策の方針の話なのか、行政文書だと難しい。わかりやすいようにというご意見だったと思うので検討していただきたい。
※計画(案)を修正しました。

《議事(3) 関係》 資料編について 資料5

- ・事務局説明 (俵補佐)

《しまねっ子すくすくプラン(県子ども計画)全体について(意見交換)》

○池田委員

- ・県と市町村の連携が重要。市町村の実態に合ったものを市民にいかに提供できるかが大事なこととなってくる。県の計画も大事にして伝えていく必要がある。今後も引き続き連携していきたい。

○堀江委員

- ・保育園、保育3団体としていろいろ話もさせていただいている。普段現場で子どもたちと向かい合いながら保育をし、保育施設を運営している。我々がどこへ向かっていくのかをようやく見せていただいたという気がする。今後様々な形でいろんな話をさせていただきながら進めていきたいと考えている。

○古川委員

- ・現場の立場からの意見とすると、現場はほとんどが保育士。今までは量をまかなうことが課題だったが、これからは質を高めるということが書かれている。だが、質を高めるための加配はない。質を高めるための加配がないと質が高まらない。各園がどんなに頑張っても到達できない。そこをお示しいただけると一番いい。
- ・なぜ示されていないかという、できないからだと思う。できないことをしてもらうということが目玉になるのでは。「県で保育士をするとすごくいい」ということが広がれば島根県に若い保育士が戻ってくると思う。質を高めるための加配を考えてもらいたい。

- ・障がい児について、一人144千円、2名だと180千円となっている。なぜ障がい児が増えているのに減るのか不思議。3名以上は72千円。
- ・発達促進児432千円で保育士がひとり取られ、最低基準に入ってしまう。432千円で1年中働く保育士はいない。そういった現場の実情をせめてわかってもらいたい。

○坂本委員

- ・パブコメに子どもたちの声のせられたのはうれしい。今までは大人への支援が多かった。子どもたちに対しての支援を書きただけだと嬉しい。子どもの最善の利益を考えていかないといけない。いい形で応援していけたらと思う。

○景山委員

- ・さまざまな意見を取り入れていただいた。
- ・物価高に賃金の伸びが追い付いておらず、食費が高くなってきている。これから先の変化も大きいのでは。
- ・母子家庭の収入が少ない。不登校率が高い。家庭で食べられない子どもたちがいる。
- ・障がいのある子を抱えている親は働きたくても働けない環境にある。経済的に賄えなくて子どもの貧困に陥ってしまうということが加速度的に起きている。県として支援をしていただきたい。

○鈴木委員

- ・県、市町村、企業の皆さんと連携して、労働局ができることは積極的にしていきたい。関係機関が連携して取り組んでいけたら。
- ・資料3について、しまねっこのキャラクターもいれたらとっつきやすいのでは。

○玉串委員

- ・計画の一番の打ち出し部分があるならそういうところにフォーカスをあてて書きこまれたらよいと思う。進んだことがあれば書き込んだほうがよい。
- ・概要版を作るといいと思う。
- ・パブコメで子ども・若者からの意見が出たことも素晴らしい。どういう手段で意見を寄せられたのか教えてほしい。
- (事務局) 概要版の作成も含めて、この計画を多くの県民の皆さんに知っていただけるよう工夫していく。(俵補佐)
- (事務局) パブリックコメントについては、県のLINEも活用して周知を図った。また、子ども・若者から意見が寄せられたのは、委員のみなさまが周りの方々に声掛けしてくださったことに加え、居場所の支援者の方がそこに通う子どもや若者に計画を読んでもらい、どう思うか、質問しながら子どもたちの意見を引き出してくださったことで、本当に子どもや若者のリアルな、率直なことを寄せていただけたと受け止めている。(俵補佐)

○上野委員

- ・パブコメを読み、胸が熱くなった。子どもたちのプランであることの扉をあけていただいた。子どもたちの思いを受け止めて作成したということをお知らせしていただいた。

- ・市町の実際の動きや現状把握などをしていただけたらと思う。1年ごとに評価していきながら5年間の到達目標に達することが出来たら良いと思う。

○長岡委員

- ・これからがスタートなので、県も頑張っていただきたいし、我々も各立場で頑張っていきたい。
- ・子ども・若者から意見が出たことがすごくよかった。意見を聞いてもらった、答えてもらったことは喜び・達成感となり、すごく良いことだと思う。毎年子ども若者から意見を聞くことが大事なのではないかと思った。

○谷口委員

- ・ひとり親家庭は、ほとんど子どもを保育園やクラブに通わせている。保育園やクラブで質の高い保育をしていただくことで、ひとり親の子どもが毎日楽しみながら暮らすことができれば、保護者の幸せにもつながっていくと思った。

○山代委員

- ・これからの取組に期待している。
- ・資料5-1(資料編別冊1:目的を達成するための主要事業)に目標値があるが、目標値だけでは検証・効果測定が難しい。どのようにやっていくかが気になった。

○小山委員

- ・必要なところを漏れなく盛り込んでいただけていい形となった。3点お伝えしたい。
- ①子ども計画の中に子どもの意見を聞くことが入ったことが新しい動きだと思う。どういったふうに聞くのが難しいと思うが、聞いてお終いだとポーズにしかない。子どもの意見を聴き続け、活かしていくということの一步。具体的に考えていかないといけない。市町村も聴いていると思うが、県でもいろんな形で(子ども会議などをするとか)考えてみてほしい。
- ②実施は市町村というなかで県は難しい立ち位置だと思う。特別支援は市町村が関わってくるところが多いが、就学前の子どもたちへの支援となると県の関りも大きい。市町村と教育委員会が協力できるように支援を期待している。
- ③子ども・子育て支援以外の視点が入っている中で資料編P24に縁結びや出会いの場などがある。学生たちには出会いがないとか、結婚したくてもできない難しい世の中となっている。P24についてはいろんなところ(民間・市町村など)と連携を図りながら県がひっばって動いていかないといけないと思うので、県でも取り組んでいただきたい。

○肥後会長

- ・すぐに実現できることじゃないこともあるが、いずれ取り組まないといけないこともあったと思う。
- ・具体的になにをやるのかわかりにくかったが、施策集が出てきたため、わかりやすくなった。主要事業名と書いてあるが、どうしてこれが主要なのか聞いてみたい。なんで主要だと思ったか。特に主要なものはどれかが明確になると良い。
- ・島根の特色ある子育て施策は?と聞かれた時に何と答えるか。県単でやっていることが見えづらいので、見えるようになるとう良い。事業のアウトプットをかさねて、「こういったアウトカムを見据えている」ということがあるとよい。

- ・こどもの意見を聴くというところで、仕組みや組織の変化で見せてほしい。知事とこどもの懇談会など。見える化して、県民に分かるようにしてほしい。

《議事1～3：しまねっ子すくすくプラン（県こども計画）の了承について》

- ・肥後会長から委員に、事務局が示した最終案について諮り、了承された。
- ・なお、本日の委員意見及び関連計画との調整等による修正等については、会長と事務局一任とされた。

《議事（4）関係 令和7年度以降の推進会議体制について》

- ・事務局説明（俵補佐）

4. 閉会あいさつ（宇治郷課長）

- ・委員の皆様には、これまで幾度となくそれぞれの専門的な知見や経験に基づいたご意見をいただきながら計画が形になったことに御礼申し上げます。
- ・今回、3つの計画をひとつにまとめるにあたっては、こども大綱を勘案し、こども・若者の意見を聴くことが求められ、手探りの中で進めてきた。
- ・この計画は、県のこども施策を進めていくための基本となる計画であり、これまで以上に幅広い分野にわたるものとなっている。この計画を県庁全体で共有し、また市町村・民間団体の皆様と協力した取組やこどもの意見を聴いていくことを進めていきたい。